

深い道徳的不一致と改訂なき受容

萬屋 博喜（広島工業大学）

私たちは、道徳的に何が正しく、何が正しくないのかについて、意見を異にする。そのなかには、根本的な道徳的価値観が食い違い、合理的な討論や説得による解決が困難なものがある。これは深い道徳的不一致（Moral Deep Disagreement）と呼ばれる現象であり、その特徴づけや解決可能性をめぐって議論が続いている。本発表では、最晩年ウィトゲンシュタインの見解に端を発する蝶番認識論の観点から、解決が望めない深い道徳的不一致において当事者がとりうる認識的なあり方を検討する。具体的には、何が理由や証拠とみなされるかを規定する蝶番の一種として、根本的な道徳的価値観を解釈する。そのうえで、そうした蝶番が食い違う場面では、説得による解決が不可能であっても、当事者は自らの蝶番を改訂せずに保持する資格をもちうると論じる。さらに、自らの立場を保持しつつ、対立する蝶番を保持する資格を相手にも認める「改訂なき受容」が、不一致を解決するものではないとしても、懐疑論にも相対主義にも陥らない認識的な応答となりうることを示す。